

逆境ぎやつきょうの中で

ゴー・ヴィヴィアンイミン

みなさん、こんにちは。私はシンガポールから来たゴー・ヴィヴィアンイミンと申します。今日、「逆境の中で」という題でお話させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

私は小さなころから、兄と一緒に精神せいしんりょく力の強い母に育てられました。私が四歳の時、母はがんの診断を受けました。一端治りましたが9年を経過けいかしてからがんが転移てんいしてしまいました。母はがんを闘たたかいながら一生懸命こそだ子育てを続けました。母のその姿を見て私は強い印象を受けました。

生活をしている中で悲しいことや辛いことがあって落ち込んでいる時があります。しかし、それは充実した人生に不可欠ふかけつなものです。人間は逆境の中でこそ成長するものなのです。これは、母から学んだ一番大切な人生の教訓きょうくんです。「逆境から学ぶことの大切さ」ということを含めて、今までの自分の経験の一つを語りたいと思います。

実は、中学生と高校生の時に、私はサックス奏者になりたかったです。中学校に入学してから、吹奏楽部に入部して、その時サックスを練習し始めました。高校の時、サックスの練習だけではなくて、学生指揮者がくせいしきしやにもなりました。つまり、中学校と高校時代に、音楽に魅了されました。

しかし、卒業後の進路を巡って、私は父と対立してしまいました。私はアメリカの音楽大学を受験して、合格しました。しかし、父は私の将来を考えたら、学部を変えるべきだと言いました。私は自分の好きなことをするよりも、父の忠告に従った方がいいと考えました。最終的に、私はシンガポール国立大学の人文社会科学部に入学しました。

音楽大学に入れなくて、私は最初は絶望していました。そうした中、日本の大衆文化に興味があったので、大学に入学した時、日本研究専攻を選びました。大学生活のいい思い出の一つは、私が書いた日本の音楽文化についての論文を教授に褒められたことです。その時、あることに気付きました。「私は音楽が好きだから、今後も研究対象として音楽に関わって行こう。」というものです。やっと、私は音楽と繋がっている好きなことを見つけることができました。

結論として、私にとって一番大切なものを挙げるとすれば、それは「逆境から学ぶこと」です。この経験から、落ち込んでいるより自分の現状を受け入れれば、きっと状況を好転できると学びました。大学生になっても、闘病した母の姿を忘れません。私は打たれ強くなるために、これからも逆境から学んで自分を磨きたいと思います。

これで私のスピーチを終わりにします。最後まで聞いてくださってありがとうございました。